

# 社説語彙の研究

李 昌 益 \*

目 次	
はじめに	4.2. 雑誌語彙との比較
1. 語彙調査の意義及び方法	4.3. ニュース語彙との比較
2. 社説語彙の性格	5. 語彙の分析
3. 資料の選定とサンプリング	5.1. 名詞類
3.1. 資料の選定	5.2. 動詞類
3.2. サンプリングや分析の方法	5.3. 形容詞類
4. 社説語彙の特徴	5.4. 感動詞類
4.1. 日常生活語彙との比較	6. 終りに

## はじめに

日本語の語彙の特徴やその問題点について研究する時、語彙のどういう面について研究すべきかという根本的な問題にぶつかる。語彙研究に関するいままでの先学の成果は多いが、語彙そのものの特徴に関しての調査・分析の成果は「国立国語研究所の報告書」を除くとまだ物足りないような気がする。つまり、一般論的な立場から考察したものにすぎない。語彙の体系を全体的に把握する方法には全体の語彙の体系を抜き出すことや限られた範囲の語彙についてその体系や特徴を明確にすることがある。

このような方法論から考察したいまでの研究の成果には「広告の語彙」、<sup>1)</sup>「放送の語彙」、<sup>2)</sup>「漫画の語彙」、<sup>3)</sup>「流行歌の語彙」、<sup>4)</sup>「文学作品の語彙」<sup>5)</sup>など、いろいろな観点

\* 済州大 日語日文学科 教授

1) 「現代の語彙」(講座日本語の語彙7), 佐藤喜代治編, 明治書院, S57. P. 237~350

から調査が行われているが、これらは一定の調査範囲を決めて全面的な語彙調査からそれぞれの特徴をはっきりと表わしたものである。ここでの研究はこのような方法論から限られた語彙集団の特徴を部分的な語彙調査を通じてまとめたい。特に細かい部分の語彙が文章の内容によってどのような分布になっているかを調査する。調査の対象は「新聞の中の語彙」である。新聞の中でも新聞社の主観が入り、またいちばん簡潔で明瞭な「社説」<sup>2)</sup>を対象にして分析する。語彙調査を通じて社説で使われる語彙の分布や特徴がある程度表れる。

## 1. 語彙調査の意義及び方法

語彙調査とは言語使用の状況を明かにするため資料・分野・時代などの範囲を一定にしておいて、どのような語がどのように使われているかを調査することである<sup>3)</sup>。語彙量を調査して一定の範囲を定めた時に、まずどのぐらいの量の単語があるかを延べ語数と異なり語数にわけてまず調べる。それぞれの品詞別の区分や語種別の区分を通じて文章語の性格を明らかにし、また内容によって語の相違を確認する。

新聞の社説は特定の分野の現代語彙の分布を知ることができ、言葉の使い方を把握するための資料として提供することができる。語彙調査を通じて特定な部分の現代語彙の実態の把握ができる。

## 2. 社説語彙の性格

新聞社は巨大な組織である。本社や国内の支社はもちろん海外の支局まで新聞社の規模によって数百名から数千名以上にのぼるほど多くの人によって休みもなく毎日働いている。新聞記事は新聞社によって記事の内容の量や細かい部分は違う所

2) 東亜大百科事典に載っている社説(editorial)の定義はつぎのようである。国内的・国内的時事の問題について新聞社または出版社がその社の責任で表明する意見や主張。論説ともいう。一般的には主筆・主幹・あるいは論説主幹を中心にそれぞれの専門分野で知識深い記者たちがあつまって論説委員会が執筆する。

3) 「国語学研究事典」, 佐藤喜代治編, 明治書院, S58. P91

があるが、内容そのものはこの新聞社でもほぼ同じである。たとえば「一大統領がなくなった」という記事だが、これをどう扱うかは新聞社の問題なのである。しかし、社説は読者の興味のある客観的な事実を新聞社なりに主観的な立場を立てて独自の色を少し強引にまとめて書くものである。そのため、社説をよめばポイントになる記事の理解が深くなり、新聞社の考えている論旨もすこしずつ違ってから新聞社個々の個性も表わされるのである。つまり、自分の主張を短かい紙面に申しあげて読者たちの判断に大きな影響を与えるから新聞の中ではとても厳しくて重要な部分である。

そのため社説は短かい紙面のなかで自分の主張を通じて読者の心を動かすものでなければならないから効果的で効率的な語彙を選ばなければならない。日常生活語のように不必要な単語を使ったり、単語をたくさんならべたりすることは許せないのである。それで人がよむ時すぐその意味がわかる圧縮された表現や単語を選んで述べなければならない。一方、社説を読んでも内容の難しさや使っている語彙の難しさである程度の知識がなければなかなか理解しにくい面もある。つまり社説というのは漢字語や専門用語、時事用語が多いから理解することがなかなか難しい。また新聞社の立場を表わすものであるから方法論の上では自分の判断と違う所も出るなど新聞の記事とは全然異なる別のものであるといっていいたいだろう。

社説の中の語彙の性格を一言でいうことは難しい。名詞では固有日本語より漢字語がはるかに多い。たまに外来語もみえるが、その大部分が固有名詞の人名や地名である。中に相当の部分は専門用語で、あるテーマによって出現する語彙ももちろん違う。動詞の場合、ほとんど漢字語の体言に「スル」が付いているのが多い。そのほか出現頻度数が多いのは「イル」、「アル」、「ナル」、「ヨル」イウなどであるが、これらを除いては一つのテーマで動詞に2回以上出現するのがほとんどない。また形容詞類(形容動詞・副詞含む)の比率がとて低く、修飾語が不必要であるのが原因であろう。その感動詞類(連体詞、接続詞含む)の比率がひじょうに低く文章のなかにはほとんど見えないのである。このようなことが一つの性格と言えよう。詳しくは後述する。

社説は流行語や方言は例を出す時を除いて他には絶対使わないで普遍妥当な現代語彙だけを使う。そのような点から見ると後述するが、情報の伝達という機能から放送のニュース語彙と対応できる。つまり、いろいろな面でよく似ているが、違うところもある。ニュースは丁寧体であるが社説はそうでない。ニュースは同音異義語の区別

が容易ではないが社説は文字言語であるからやさしく区別できること、ニュースは時間的な制約があるが社説はすてないかぎりいつでも読めること、ニュースはアクセントの確認ができるが社説はアクセントはわからないことなどがあげられる。

このごろ、若い人たちの間では活字離れの傾向が著しくなってきた。新聞を読む時、ふつうの新聞ではなくてスポーツ新聞を好み、また新聞の内容より漫画や写真だけを見ておわる。スポーツチームの成績や活躍ぶりそして大きな活字だけみて、つまらなくて難しそうな社説はあまり読むものとは思わない。せっかく読む時でもほとんど漢字語で示唆的内容であるから理解しにくい。そのため社説離れの傾向はもっと深くなりそうな気がする。

### 3. 資料の選定とサンプリング

#### 3.1. 資料の選定

社説語彙の調査は1998年12月から99年5月まで日本経済新聞朝刊の六ヶ月分の中で12個を選んで調査の対象にした。社説は1日ひとつだけになっているものもあるが、ふつう二つ書いている。休みなしで発刊した場合約360個で、テーマになるのは新聞社の性格上、政治や経済に関する内容がもっとも多く80%以上を上廻っている。そのほかは社会の事件や国際の関心事についても政治と経済と関聯つけてたくさん社説を出している。この論文ではつぎの12個の社説で分析する。全部を分析することではないが、ある程度はこの分析から社説語彙の分布がわかると思う。論文の分析に利用した社説のテーマは次のとおりである。

- A. 長期金利で何が問われているか
- B. 米国の保護主義機運を再燃させるな
- C. 戦略会議の提言で負う首相の責任
- D. 財・金分離で「大蔵省」の時代に幕を
- E. 行方定まらぬ日ロ領土交渉
- F. 対話で收拾を急げ

- G. 薬価改革で議論つくせ
- H. カンボジアは言より実行を
- I. 「ラホール宣言」の進展を望む
- J. 試行の価値ある夏時間制
- K. 中東を超えたクルド問題
- L. 植物検疫に透明性を

### 3.2. サンプリングや分析の方法

語彙調査の対象を品詞別、語彙量、使用頻度、頻度順位、使用率、語種別構成に分けて調査をした。内容の題目は調査対象から除外した。

品詞別の分類は原則的に教科文法の分類法を基本的な基準として採択した。しかし語彙量があり多くないため代名詞や数詞は名詞類に、形容詞と形容動詞・副詞は形容詞類に、連体詞・接続詞は感動詞類に入れて分類をした。本論で語彙の例をあげる時はそれぞれを区分して述べた。語種別分類においては基本的に名詞や動詞だけ対象にし、それぞれの単語を固有語、漢字語、外来語、混種語の四つの種類にわけた。外来語と混種語は外来語の分類をする時、( )のなかに入れて分類をした。社説ではほとんど漢字語であるから漢字語の場合は内容によって上・下位語の例をいくつかあげ、固有名詞を人名・地名に分けた。また固有語と外来語も全部出して例を見ることにした。混種語の分類では動詞を「+スル」だけの例を出し、他のできる、されるは数が少ないから対象から外した。外来語+漢語、漢語+外来語なども全部例をあげた。すべてが名詞と結んでいるから名詞類の分類の時例を示した。語彙量の分類は延べ語数や異なり語数を品詞別に分類し、延べ語数に対する異なり語数の比率も調査した。そして社説の内容によって単語の使い方が違うところを確認する名詞は出現の頻度が10位までを、動詞は語彙の数が少ないから5位までにした。ほかの品詞はすべて取り出すことにした。

## 4. 社説語彙の特徴

ここではまず社説の語彙を日常生活語彙、雑誌語彙、ニュース語彙と比較して品

詞の比率や使っている語がどのような相違をもっているかをみる。

#### 4.1. 日常生活語彙との比較

社説の語彙と日常生活語は文字言語と音声言語という差がある。社説の特性からみると精製された語彙を使い、そして限られた表現を選んで書く傾向がある。それに比べて日常生活語は会話体としてなにも遠慮せず自分の思想や感情を表わし、語彙の量の面でも、使っている語彙の種類の方でも社説より多種多様である。この論文では「国立国語研究所」<sup>4)</sup>で調査して報告した1952年と53年の東京の日常談話の録音資料をもって社説の語彙と比較してみた。談話資料は総83620語に対しての結果で、助詞・助動詞は除外した数字である。新聞の社説は12回分の延べ語数4933語で、助詞と助動詞の37.5%をのぞけば62.5%の3205語を対象にした。ここでは比較の便宜上、日本の教科文法の分類基準によったが、代名詞や数詞は名詞のなかに入れた。両方の比率はつぎの〈表1〉で示した(日常生活語彙の調査では形容詞と形容動詞を一つ扱って分類したので新聞社説だけで区分した)。

〈表1〉 日常生活語彙と社説の語彙の品詞比率

品 詞	日常生活語彙の品詞比率(%)	新聞社説語彙の品詞比率(%)
名詞(代名詞,数詞含む)	43.5	64.1
動 詞	24.4	25.1
形容動詞	7.8	2.1
形 容 詞		2.3
副 詞	12.2	2.6
接 続 詞	3.8	1.0
連 体 詞	1.6	0.9
感 動 詞	9.4	0.0

上の表からわかるように名詞において新聞社説のほうが日常生活語に比べてはるかに比率が高いことがわかる。これに比べて動詞は比率がほぼ同じ比率をみせている。しかし、形容詞類の比率は7.8:4.35、副詞の比率は12.2:2.6であり、接続詞、連

4) 国立国語研究所報告8「談話語の実態」、国立国語研究所、秀英出版、1955

体詞の比率も日常生活語のほうが高い。このなかでいちばん目を引くのは感動詞で、9.4:0からもわかるように新聞の社説では全然使っていないことがわかる。この結果からの結論では、新聞社説は不必要な修飾語句や詠嘆の表現は避け、できるだけエッセンスの語彙だけを文章に表わすということである。短かい紙面のなかで情報伝達を充実に随行しているためであろう。

## 4.2. 雑誌語彙との比較

雑誌と社説は文字言語である。情報伝達という次元からみると両方は共通点が多い。雑誌の中にはいろいろな種類があり、社説と似たようなものは時事問題を扱った雑誌である。両方はひとつのテーマをもって論じるのであるが、量の面で差が大きい。「国立国語研究所の報告書」<sup>5)</sup>の中に調査された対象の語彙と社説の語彙の比較は〈表2〉にまとめる。品詞の分類を名詞類(代名詞・数詞含む)・動詞類・形容詞類(形容動詞・副詞・連体詞含む)感動詞類(接続詞含む)の四つに分けて大体の品詞量を比較した。

〈表2〉 雑誌語彙と社説語彙の品詞比率

品詞	雑誌語彙の品詞比率(%)	新聞社説の品詞比率(%)
名詞類	61.8	64.1
動詞類	23.6	25.1
形容詞類	12.8	7.0
感動詞類	1.8	1.0

〈表2〉から見られるように、前述の日常生活語彙の調査と違う結果が出るのは名詞類である。比率が日常生活語に比べ、新聞社説とはほぼ同じ比率になっている。これはやはり情報の伝達の役割を充実にするため不必要な単語をあまり採用しないからはっきりとした意味の伝達ができる名詞をよく使ったためであろう。

5) 国立国語研究所報告25「現代雑誌90種の用語用字」、国立国語研究所、秀英出版、1964

両方の差をより細かく比較するため〈表3〉に、実際に使っている雑誌語彙と社説語彙を上位20位まで並べた。文章の特徴による一致する点や、テーマによる不一致点が明確に確認できる。

〈表3〉 雑誌語彙の上位語と社説語彙の上位語

順位	雑誌	社説
1	シ・スル	シ・スル
2	イル	イル
3	イイ、イウ	アリ、アル
4	イチ	政府
5	コト	ソレ
6	ナリ、ナル	ソノ
7	レル、ラレル	市場
8	ニ(二)	ナイ
9	アリ、アル	ヨル
10	ソノ	金融
11	モノ	ノ
12	ヨウ	財政
13	ジュウ(十)	日本
14	サン(三)	ナル
15	コノ	経済
16	ゴ(五)	首相
17	ソレ	政策
18	オ(御)	イウ
19	ナイ	問題
20	キ、クル	社会

この論文では助詞・助動詞は分析の対象でないから1~20のなかに助動詞がレル、ヨウの代わりに〈表3〉の中にはいれてないが、21位、22位のヨイ、二十をいれる。両方の上位20位までの品詞をみると雑誌の場合、名詞12・動詞6・形容詞2になっている。また社説は名詞13・動詞6・形容詞1の順である。両方において共通するのは名詞にはひとつもなく、動詞のスル、ナル、イウ、アル、イルがあり、形容詞には「ナイ」が共通している。〈表3〉でみるように雑誌では名詞類には数詞が多いが、社説では数詞が上位語に一つもない。コンパクトな表現をするためできるだけ数字で段落を分けて説明しなかったのではないかと考えられる。そして動詞や形容詞が一致してい

るのは全部が基本語彙であり、会話語や文字語のどこでもよく使われているからであろう。

### 4.3. ニュース語彙との比較

ニュースと社説は機能の面でよく似ている。一つのテーマをできるだけ短かく、そして正確に伝達しなければならない。ただニュースは与えられた情報を加減なく客観的に人に伝えるのであり、社説はそのニュースを分析して新聞社の立場も伝達する主観的な面をもっている。金美京の論文<sup>6)</sup>のニュース語彙の分析を利用して比較した結果が〈表4〉である。ニュースの品詞比率は名詞69.3%、動詞22.4%、形容詞(形容動詞含む)2.9%、副詞2.6%、接続詞1.1%、連体詞1.6%、感動詞0.1%になっている。両方の比率はどれもほぼ一致していることがわかる。名詞の比率がやく5%位の差であるが、誤差の範囲内に入っているから問題にはならない。ニュースの上位20語までは次のとおりである。

〈表4〉ニュース語彙の上位語

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
語彙	コト	イウ	スル	ナル	今日	日本	ノ	アル	コレ	一	オプチ	三	自民党	モノ	二	總裁	行ウ	タメ	ナカ	市場

20位までの品詞別の分布は名詞15、動詞5でほかの品詞にはない。ニュースと社説の語で共通している語は名詞では日本、市場、ノが、動詞では「行ウ」をのぞくイル、スル、ナル、アルがある。しかし、社説とかニュースはその日の事件<sup>7)</sup>に影響されるから実際には上の表のなかの順は日によっては無意味かもしれない。ただし、部分的観点からみてある程度言葉の使用がどうなっているかの確認ができよう。

6) 「韓・日放送語彙の比較考察」金美京、済州大校校教育大学院修士論文、1999

7) ここでの事件はわが社会でおこっていることを意味する。つまりニュースの対象の全部をさす。

## 5. 語彙の分析

ここでは延べ語数4933語、異なり語数2487語のなかで助詞・助動詞をのぞいた62.5%にあたる3205、2341語を対象にして分析をした。

### 5.1. 名詞類

名詞は代名詞、数詞を含めて延べ語数2052(64%)異なり語数1482(63.3%)である。全体の分布の状況は下の〈表5〉に収めた。

〈表5〉社説語彙の中の名詞の語数・比率

社説分類	延べ語数	比率	異なり語数	比率
A	185	69.8	152	69.4
B	204	68.9	176	69.0
C	187	65.6	141	63.8
D	150	62.7	114	59.7
E	178	63.5	141	61.8
F	228	67.0	172	69.6
G	139	57.2	86	54.4
H	120	60.0	92	57.5
I	202	68.2	115	64.2
J	160	59.2	101	56.1
K	146	70.1	93	62.4
L	153	62.4	100	65.4

〈表5〉でもわかるようにA～Lにおいて平均的な比率は64.0%である。いちばん高い比率を見せるのがKで70.1%、いちばん低い比率を見せるのはGで57.2%である。そして量の多いものはFの228語、少ないのはHの120語しかない。Fの場合、複合漢語があまりなく、Hは複合漢語が多いからである。それらは内容によるものである。平均からみるとKが+6%、Gは-7%である。その差がおおきいが±7は統計学の上で許される範囲の誤差であるから問題はない。日常生活語のように自分の思想や感情をいれて喜怒哀楽を表わすのとは違って記事に関係のある対象に対して注文をつけるものであるから必ず言うべき必要な部分だけとって伝達していることがわかる。ここでA～Lにはいっている10位まで<sup>8)</sup>

の語をつぎの〈表6〉からみる。

〈表6〉社説語彙の上位語

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	長期	スーパー301	経済	金融	外相	核	薬	支援国	インド	時間	クルド	日本
2	金利	政府	日本	市場	ロシア	両国	価格	国際	パキスタン	導入	トルコ	制度
3	政府	経済	答申	財政	会談	首相	医薬品	安定	首相	夏	国家	WTO
4	ノ	ノ	提言	ノ	首相	軍事	政府	政権	ラホール宣言	経済	民族	米国
5	政策	米国	改革	コト	大統領	政策	医療	社会	コト	制度	国民	植物
6	市場	日本	首相	政策	コト	インド	必要	ノ	関係	国民	政治	検疫
7	国債	保護	ノ	経済	領土	パキスタン	患者	コト	問題	調査	政府	市場
8	財政	赤字	政策	日本	経済	地方	薬価	経済	核	省エネ	コト	改革
9	経済	貿易	政治	官僚	交渉	紛争	問題	会議	両国	コト	PKK	必要
10	コト	責任	コト	分離	エルチン	対話	コト	国家	経済	ノ	問題	政策

語彙の量が少ないから10位まで表示する。ほとんどのテーマで10位以下は頻度数が2個以上のものがあまりない。前の表で示した20位までの語の中で名詞は「政府、社会、経済、市場、ソノ、ソレ、ノ、金融、財政、日本、首相、政策、問題」など13個である。だいたいの社説では上位語を示しているが、社説の内容によって上位語が変わる語がもちろんある。

各テーマ別にして語彙の分布を取り出し、テーマによる名詞の使い方の相違は次

- 8) 語彙調査において単語の分け方が問題になる。名詞は漢字語の場合、できるだけ単語を分離しないで分けることを原則とした。例えば、「中央銀行総裁会談」は「中央」、「銀行」、「総裁」、「会談」の四つでわけるのはなく、「中央銀行」と「総裁会談」で分け、二つの単語として扱った。

のようである。<sup>9)</sup>

〔A〕は長期金利の上昇を抑制するために資金運用部の予算編成と国債発行による問題を説明し、これからの問題に対処することを提示した内容である。本文の中の人名の部分に日本の政治家の名前も見える。国内経済に対して政治家に働きかける内容があり、内容によって語彙の出現の関係をみせている。

上位語: 長期、金利、政府、政策、経済、財政

下位語: 国債発行、資金運用、予算編成、構造改革

固有名詞(人名): 宮沢(大蔵相)<sup>10)</sup>2、小淵(首相)

固有名詞(地名): なし

固有日本語: 買いいれ、買い切り、ノ、コト

外来語(人名・地名除く): (国債買い切り)オペ、マツチポンプ

〔B〕はアメリカとの貿易において自国の経済を保護するための政策を批判し、それに対応戦略を備えるよう注文する内容である。'スーパー301条'が1位にランクされているが、〔B〕だけの出現語としてはアメリカとの貿易、そして保護主義と関係の内容によって頻度の高い語が表われている。

上位語: 政府、経済、貿易、米国、保護、スーパー301条

下位語: 武器、日本、市場開放、規制緩和、責任

固有名詞(人名): なし

固有名詞(地名): 米国、日本、ブラジル、アジア、ブラジル

固有日本語: ノ、コト、ヒタネ(火種)

外来語: ユーロ(通貨)、コメ、(板)ガラス

〔C〕は日本の経済戦略に関する内容で、会議の内容などを紹介し、また日本の経済政策について提言に対して答申した内容である。内容に関する首相の責任の重さを感じさせた内容があり、出現語にも政府と関係する語が出現している。

上位語: 答申、金融、政策、提言、市場、政府

9) ここではそれぞれのテーマを漢字語の上位語と下位語、固有日本語(人名、地名、普通)、外来語でわけて分析する。

10) 人名のしろの( )は本文にあるものでふつう職位を表わす。そして外来語の項に前あるいは後の( )やはり本文そのままである。しかし、固有日本語のところの( )は( )自体が本文であり、カタカナは筆者が書き入れたものである。

下位語: 各種研究機関、郵政三事業、個別省庁配下

固有名詞(人名): 桶口(議長)

固有名詞(地名): なし

固有日本語: ノコト、見直し、取り扱い方、

外来語: (社会経済)システム、(経済運営)システム、ナショナル・ミニマム、バブル、プロセス

[D] は大蔵省に関するもので官僚主義の象徴の大蔵省を財・金を分離して金融再生を計るよう注文をした内容である。本文で新聞社の提案としてあげられた「財務省」という新語が出ている。人名のところは、ふつうは「小淵首相」と書くものをここで「は名前」の恵三までいれてある。ほかのところではなかなかみえない特徴といえよう。

上位語: 大蔵省、財政、金融、分離、改革

下位語: 財務省、官僚主導、金融再生委員会、護送船団行政、橋本行革

固有名詞(人名): 小淵恵三(首相)、橋本龍太郎

固有名詞(地名): なし

固有日本語: ウレ、カギ、モト、ノコト、ドロヌマ(泥沼)、アシ(足)、タニ(谷)、

外来語: (金融)システム、バブル、ルール

[E] は日本とロシアの領土問題に対する交渉の経過や方向、そして話し合いの進展を注文する内容である。それでロシアの人名や地名がたくさん出ている。

上位語: 外相、会談、大統領、首相、領土、問題

下位語: 懸案、平和条約、共同経済活動両委員会、東京宣言

固有名詞(人名): 高村(外相)、小淵(首相)、細川(首相)、イワノフ(外相)、エルチン、マスリュコフ(第2副首相)

固有名詞(地名): ロシア、サハリン、ユジノサハリンスク、(南)クリル、モスクワ、日本

固有日本語: ノコト、トコロ、話し合い、度合い、カベ(壁)

外来語: なし

[F] はインドとパキスタンの間で発生した核の問題を扱い、日本政府が両国に対して役割を果たせるよう呼びかける内容である。戦争と直接的な関係があるから戦争に関する用語が出ている。

上位語: 核、インド、パキスタン、地方、対話、紛争、両国

下位語: 民兵、空爆、戦争、危機回避、軍事的緊張

固有名詞(人名): パシバイ(首相)、シャラフ(首相)

固有名詞(地名): インド、パキスタン、カシミール、ラホール、ライン(沿い)、アフガニスタン

固有日本語: キツカケ、話シ合イ、スガタ(姿)

外来語: (弾道)ミサイル、ゲリラ、カースト、ヒンドウー(教)、マスコミ、

[G] は薬価が高いから制度を直すため政府の役割を強調した内容である。薬と関係のある専門用語が出現している。

上位語: 薬価、問題、医療品、必要、患者、政府

下位語: 医療器官、医師会、薬剤定価、給付基準額、流通経費率

固有名詞(人名): なし

固有名詞(地名): ドイツ、日本

固有日本語: 見直し、値引き、仕組ミ

外来語: ベスト、マイナス(面)、メーカー、(医師) グループ、データ

[H] はカンボジアの支援に関する注文である。日本をはじめ世界17ヶ国が支援しているが、国内の情勢は不安であるので真剣に取りくむ必要性を強調した内容である。カンボジアとの関係のある語が出現している。

上位語: カンボジア、支援国、国際、安定、経済、政権、社会

下位語: 国連平和維持活動、反政府勢力、指導者、総選挙、制憲議会選挙

固有名詞(人名): フン・セン(首相)

固有名詞(地名): 東京、カンボジア、日本

固有日本語: 流れ、ノ、コト

外来語: (4億)ドル、パリ(会談)、ポル・ポト(派)、グループ、フィンシンベク、モニター(する)。

[I] は [F] とほぼ似たような内容で両国の首脳があって核実験に対して円満な解決を呼びかける内容である。ポイントになる語は [F] とほとんど共通している。

上位語: インド、パキスタン、首相、両国、解決、関係、問題、核、経済

下位語: 信頼関係、首脳会談、核戦争、経済制裁措置、緊張

固有名詞(人名): パシバイ(首相)、シャリフ(首相)

固有名詞(地名): インド、パキスタン、ラホール、カシミール、

固有日本語: ウゴ(動)キ、ノ、コト

外来語: (弾道)ミサイル、

[J] はサマータイム制の実施について肯定的に考えるよう思考の転換を促した内容である。時間や政府の政策を問う語が出現している。

上位語: 夏、時間、調査、問題、経済、導入、日本

下位語: 総理府、世論調査、合意形成、地球環境、導入賛成

固有名詞(人名): なし

固有名詞(地名): アイルランド、アイスランド、英国、韓国、日本、欧州、京都

固有日本語: なし

外来語: サマータイム、レベル、(省)エネ、エネルギー、(排出)ガス

[K] は国際問題を扱ったもので中東クルド問題を円満に解決できるよう政府の役割を強調した内容である。民族の間の厳しい問題にふれ、地名が多く出現している。

上位語: クルド問題、国家、民族、政府、トルコ、シリア

下位語: 国際政治、支援活動、抗議行動、国内問題、湾岸戦争

固有名詞(人名): オジャラン(党首)、オジャル(大統領)

固有名詞(地名): イラク、シリア、トルコ、欧州、ベルリン、オスマレ・トルコ

固有日本語: ネ(根)、ヒロ(広)ガリ

外来語: クルド(民族)、グループ、(衛星)テレビ

[L] は外国から入ってくる植物に対して厳しい検査を簡素化して貿易の紛争が起らないよう勧める内容である。植物の名などが出現している。

上位語: 日本、制度、WTO、植物、検疫、市場、米関

下位語: 報告書、品種、輸入障壁、科学的根拠、国際基準

固有名詞(人名): なし

固有名詞(地名): 日本、米関、

固有日本語: 見直し

外来語: リンゴ、サクランボ、コドリンガ、ゴールデンデリシャスパネル、ルール、サービス、コメ

これまでの分析から一言で社説の特徴を言うのは難しいが、固有日本語が占める比率が‘コト’や‘ノ’を除けば非常に低い。ニュース語で10位の‘ナカ’<sup>11)</sup>もここではほとんど出現していない。外国の人名とか地名はそのテーマと深く関係を結んでおり、出る時は繰り返されているから頻度率上位を占めている。地名において‘日本’は毎日テーマと関係なしで出現している。そしてもう一つの特徴として、はっきりと断定はできないが、‘首相’と‘政府’は同じレベルで取り扱っているように思われる。一つのテーマのなかに政府と首相は同時に入っていない。全部そうではないが、政府に対する注文や政府の首長の首相に対する注文は同じである。首相と政府両側に対してそれぞれの要求をするのではなく片方だけ呼びかけているのである。例えば韓国の新聞の社説だったら“大統領と政府になににを注文する、またそうしてほしい”という形の文になるものが日本の社説では「政府に一。首相に一」と両方を独立させて一つだけを採用するのである。政府=首相、首相=政府という方程式が成立するのである。個人の意見に過ぎないが、日本の場合は政府の信頼度(権力といってもいい)の指数が高いので独自の判断や行動に責任を持つことができるから‘首相’と独立できるものであり、韓国の場合は政府の力より最終決定の人が大統領であるから大統領に対する注文をするのではないかと思う。またもう一つ特徴をみせている語は‘わが国’はつかわないで例外なく‘日本’を使うことである。ニュースでもまったく同じであるが、社説のなかでも一語も‘わが国’がない。韓国の社説のパターンは国際と関係のある時は‘韓国’で表現するが、それ以外にはほとんど‘우리나라(わが国)’を使い両国間の言語習慣の差をみせている。

## 5.2. 動詞類

動詞の比率は〈表7〉のように延べ語数804(25.1%)語、異り語数591(25.2%)語である。比率は放送、日常生活語、雑誌の中に出ている比率とほとんど変わらない。動詞の調査は補助動詞も全部調査の対象にいった。例えば、「考えている」は‘考える’と‘いる’で分ける。そして複合格助詞にはいつている動詞も全部調査対象にいった。「一にわたって」の場合‘わたる’を分離して動詞の項目として調査・分析した

11) 金美京、前掲書

。下の〈表8〉にも提示しているが、調査対象になる語のなかには体言と結合した「スル」がいちばん多い。その他上位語1～5までの語には例外なく「イル」「アル」「ナル」「ヨル」で上位5語だけで50%以上をしめている。それで〈表7〉には6語しかはいらなかった。そのほかは延べ語数で2以上出ているものはほとんどない。それぞれのテーマに載っている語を全部並べる。

〈表7〉 社説語彙の中の動詞の語数・比率

社説分類	延べ語数	比率	異なり語数	比率
A	63	20.2	50	22.8
B	70	23.3	58	22.7
C	66	23.2	50	22.5
D	60	21.6	49	25.6
E	66	23.6	54	23.7
F	83	29.6	47	19.1
G	80	32.9	51	32.2
H	53	21.4	43	26.9
I	61	20.6	48	26.8
J	84	31.1	57	31.7
K	47	22.4	42	28.2
L	72	29.4	42	27.4

〈表8〉 動詞の上位語

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	スル											
2	イル											
3	アル	アル	ナル	イウ	ナル	ナル	アル	ナル	ナル	ナル	アル	ヨル
4	ナル	ナル	ナル	ナル	イウ	アル	ナル	アル	アル	アル	ナル	ナル
5	ヨル	イウ	ヨル	アル	アル	イウ	イウ	ヨル	ヨル	ヨル	ヨル	アル

〈表8〉では上位5語を表わした。A～Lまで1位になっているのは‘スル’である。下の分類のなかにもあるが、名詞あるいは形容詞類と結合して‘スル’になったのがもっとも多い。また単独の形もあればほかの助詞と結合して連語になっているものもある。これらはすべて分離して分析をした。下記にA～Lまでに出現している動詞をすべて出した。また‘+スル’のところには固有語と‘+スル’になっている語を( )のなかに入れてほとんど漢字語が占めている‘スル’と区分した。

- |   |     |  |
|---|-----|--|
| A | +スル | 中止、偏重、再開、多様化、右往左往、動揺、拒否、講、予知、(先送り)   |
|   | その他 | 抑える2、かかる、問う、ぬぐえる、うける、考える、みる、よむ、知らしめる、求める、うちだす、おいこむ、偏る、しめす、含む、推し進める、投げかける、立ちかえる、試す      |
| B | +スル | 復活2、急増、警戒、発表、政治問題化、特定、回避、徹底2、交渉、転、達、主張、警告、急減、提供、拡大、協力、(こう、はつきり)                        |
|   | その他 | 迫る、踏み外す、重ねる、防ぐ3、みる、あわせる、うちだす、強まる、高まる2、揺らぎはじめる、はずれる、おもいおこす、あびせる、担う、いそぐ、ひろがる、開く、くる、える    |
| C | +スル | 題、提出、訪問、構成、整理、集約、平価、排除、議論、提示、対応、(うらうち)   |
|   | その他 | わたる、超える、もどす、いう、よみこなす、かんじる、改める、組みかえる、思う、のせる、あげる、まかせる、うけとる、行う、なくなる、出す、おもいきる、盛りこむ、        |
| D | +スル | 再開、是正、転換、実現、変更、試行、合意、順守、一本化、打破、創設、対応、尊重、協議   |
|   | その他 | めぐる、合う、にぎる、下ろす、行う、のこる2、移す、ゆだねる、える、くる、いく、深まる、招く、急ぐ、示す、抜け切れる、つづける、かえる、きまる、きりかえす、出す、偏る、立つ |
| E | +スル | 会談、解決2、管轄、対、放棄、対処、訪日、関、締結、継続、合意、考慮   |

- その他 めぐる、遅れる、感じる、望む、向う、立ち寄る、つけられる、のべる、  
言う、受ける、結ぶ、示す、盛りこむ、まとめる、書く、える、はじめ  
る、考える、みる
- F +スル 侵入、訪問、会談、説明、保有、直結、憂慮、対、成立、激化、  
同調、摘発、利用、増強、樂觀、拡大
- その他 競いあう、つきあわせる、わたる、つづく、考まる、打つ、探る、通じ  
る、はかる、きまる、誓う、ふまえう、つづける、いく、望む、驚く、み  
せる、失う、浮ぶ、裏切る、絡む、傾く、向う、動きだす、ひろげる、  
掲げる、目立つ、促す
- G +スル 難航、対、反対、提供、関、購入、処方、請求、是正、廃止、導  
入、負担、選択、説明、採用
- その他 きめる、設ける、出る、出す、とる、探る、使う、きまる、求める、える、  
渡す、応じる、もつ、なる、考える、損なう、いう、示す、もらう
- H +スル 前進、終了、削減、存在、構成、努力、山積、要、解放、表明、  
実行、突出、約束、清算、(こう)
- その他 きめる、おちつく、もたれる、望む、つづく、もつ、滞る、あたる、賭け  
る、くる、みまもる、
- I +スル 発表、関、歓迎、対、生、期待、訪問、実現、講、努力、合意、実  
施、確認、解決、再確認、存在、協議、凍結
- その他 高まる、およぶ、いえる2、とる2、むける、あう、訴える、含む、はなしあ  
う、おわる、くる2、うらぎる、努める、もらう、主張しあう、認める、あり  
うる、みる、出る、ともなう、促す、こたえる
- J +スル 生活、関、導入3、採用、実施2、中止2、検討、削減、達成、開  
催、解消、直結、増加、対、喚起
- その他 向う、かける、調べる、上廻る、みる、はじまる、ひろがる、済ます、し  
まう、へる、押しつける、いう、いたる、出す、うける、めざす、はじめ  
る、むすびつく2、はたらく、使う
- K +スル 反撥、展開、処理、解体、誕生、存在、注目、混乱、拒否、排除
- その他 出る、異なる、まきこむ、きまる、いたる、とる、禁じる、呼ぶ、あたる、こ

		じる、表れる、うちだす、終おる、迫る、進む、つづく、手控える、住む、移る、生まれる、ひろげる、超える
L	+スル	対、勧告、解禁、提出、違反、判断、確定、申請、規制、連携、修正、牽制、批判
	その他	認める、まとめる、従う、はなしあう、あたる、申したてる、付ける、かわる、基づく、求める、改める、うちだす、超す、待つ、奪う、あゆみよる、進める

出された語彙からわかるようにたまに頻度数2があるが、そのいくつかを除くと全部1回だけ表れている。同じ動詞を文章のなかで2回以上くりかえしていないことある。代りに同じ表現を‘する動詞’と‘一般動詞’と二つに分けて表現する。つまり、Aの偏重する: 偏る、Cの提出する: 出すなどのようなものである。互いに代えても文脈がおかしくなることはない。同じ動詞を避けるとしか考えられない。また固有語とスルの結合は非常に稀であることも一つの特徴とあげられよう。やはりコンパクトな表現のためには漢字語を多く使用するのである。それは社説という特徴から読む読者層によるものでもある。動詞の形には連用形、連体形順であり、終止形は意外に現れていない。

### 5.3. 形容詞類

前述したように形容詞(2.3%)、形容動詞(2.1%)、副詞(2.6%)を形容詞類の中に入れて調査する。日常生活語の20%、雑誌語12.8%に比べたら比率が低いが、ニュース語の5.5%よりは少し高い。この比率からみてもニュース語の分布といちばん近いことがわかる。形容詞と形容動詞はA1、副詞はA2で区分して整理をした。形容詞類には語がすくないから別の表は作らなかつた。

A1 重要、当然、危険、鈍感、安易、基本的、明らか、真剣 ない5

A2 あまり2、

B1 不公正、自由、多角的、重大、 グロバル、ない4、重い

B2 たいてい、はっきり、もちろん、やはり

C1 重要、自由、膨大、明確、 ない4、大きい、重い

C2 なんにも、すでに、ただ、また

- D1 重要、執権的、当然、肝心、深い、ない(5)、しぶい、苦い、大きい、いい、ほしい  
 D2 すっきり、すべて、まかりなりにも、かつて、すでに、かりに  
 E1 誠実、残念、具体的、積極的、必要、ない(3)、大きい、ほしい、等しい  
 E2 全く、  
 F1 冷静、さまざま、乏しい、ない(3)  
 F2 一気に、やはり、にわか、  
 G1 十分、本当、必要、複雑、明確、自主的、ない、多い、高い  
 G2 また、それぞれ、およそ  
 H1 貞剣、容易、充実、過大、自由な、国際的、重要  
 H2 一応、まだ、つよく、ほぼ、貞に、じつに  
 I1 国際的、本格的、不充分、重要、着実、平和的、包括的、部分的、実質的  
     ない(2)  
 I2 一段と、早急に2、共に、どれほど  
 J1 長い、おおきい、ない  
 J2 つぎつぎに、わずか、もし、ともかく、ほぼ  
 K1 象徴的、否定的、実質的、 主要な、ない(2)、おおきい、はげしい、深い、しや  
     すい、多い  
 K2 一段と、すでに、  
 L1 必要、透明、大切、迅速な ない3、わかりやすい  
 L2 なし

形容詞の場合Hにはひとつの語もない。それだけ除いたらすべてのところに‘ナイ’がある。つまりほとんどのテーマには‘ナイ’があるといっている。そのため全体の上位語のなかにも ‘ナイ’が4位を占めている。テーマによって少しずつ違うが、漢字語を除いてAとHは‘ナイ’だけである。漢字語以外によく出現する形容詞は‘大きい’、‘重い’、‘深い’、‘多い’順になっている。ここでの特徴をみると状態や感情を表す語はあまり社説で採用していないように思われる。

形容動詞は名詞に接尾語‘一的’がついて形容動詞になったものが多くみられる。形容動詞のなかで‘重要な・に・だ・で’の用法が多様に使われ、また‘必要’もだ・な・で’と結ばれて文のなかでは重要な役割をしている。

副詞はそれほど多くない。‘すでに’と‘やはり’の出現頻度数が高いほうだが、ほかの品詞の頻度数に比べると、とても低いほうである。一般的によく使われている‘かなり’、とても、すこし、たいへん’などの程度副詞がほとんどなく、むしろ陳述副詞や情態副詞をよく使っているのもひとつの特徴と言えよう。

### 5.4. 感動詞類

連体詞、接続詞、感動詞をあわせてわずか1%にすぎない。下に感動詞類すべてを取り出した。

- |   |         |                     |             |
|---|---------|---------------------|-------------|
| A | この      | しかし、そのなかで           |             |
| B | その      |                     |             |
| C | この3     |                     | ごくろうさん(感動詞) |
| D | その、この   | それで                 |             |
| E | この、その   | そして                 |             |
| F | この      |                     |             |
| G | その      | あるいは、そのうえ           |             |
| H | その      | しかし、それに             |             |
| I | この、あらゆる |                     |             |
| J | その      | この、ただし、だから、しかし、それでも |             |
| K | その      | だが、                 |             |
| L | その      | だが、例えば、             |             |

連体詞のほとんどは‘その、この’であり、‘あの’とか‘どの’そして‘こんな、そんななど’一な‘形がひとつもない。ほかにはIの‘あらゆる’くらいである。

接続詞も社説ではそれほど使われていない。短かい文章であるから接続詞を使う余裕がない。

選択や逆接の接続詞が大部分である。

感動詞は一つしかない。社説での感動詞は不必要で不適切であるから採用できないのであろう。

## 6. 終わりに

社説の語彙というのは小説とは違って短かい文章のなかで自分の思想を表すものであるから適切な言葉を選んで書かなければならない。そのため視覚的にすぐ意味の把握ができる漢字語がよく使われている。名詞の比率が話し言葉より高く、そのかわりに形容詞類などの修飾語はほとんどと使われていない。社説の特性上、不必要な語を省くからであろう。

今までここからの社説語彙の分析によっていくつか特徴をまとめる。

(1) '紛争処理上級委員会'のように二語以上の漢語が結ばれて単語が長くなるのがかなりある。普通は省略して頭文字だけ採用するが、たぶん略字で書くと理解できない可能性から、読者の理解をもっとしやすくするための書き方と考えられる。そのため名詞の分類語数が少なくなる面もある。

(2) この論文の資料として利用したものが'経済新聞'のせいか上位語に'経済' '金融' '財政' '市場'のような'経済'と関聯のある語がたくさん出ている。経済専門雑誌を除く一般の雑誌語には上位語に一切見えない語で、これらを細かく分析するとそれぞれの特性の把握ができる。

(3) 表現の方法に原則がある。前述の'政府と首相'の関係は日本社会の構造から理解すべきである。

(4) +スル動詞は漢字語との結合力は強いが、固有語との結合は極めてまれ稀である。

(5) 動詞の上位語6位までの語を除くとほとんどの動詞は頻度数が1である。基本語彙の中に入っている語であるが、反復を避ける傾向から起った現象であろう。

(6) 状態表現の形容詞があまり使われていない傾向があり、形容動詞は接尾語'-的'をつけたものをたくさん使っている。副詞の場合、程度副詞はあまり採用しない傾向である。

(7) 連体詞、接続詞、感動詞の比率が日常生活語、雑誌語、ニュース語と比べて非常に低い。紙面の関係上、エッセンスだけ取って不必要な部分をなくしたからである。

以上、分析を通じて社説語彙の特徴の考察を試みてみた。少ない量をもって社説語彙の特徴について結論を下すのは難しい。そして'日本経済新聞'という専門的分野を扱

っているから分析の矛盾が発生する可能性もあるが、特定の部分を分析する方法論としてまとめることにした。全部取り出して分析をする作業は今後の課題として残しておく。

#### <参考文献>

- 佐藤喜代治、「現代の語彙」、明治書院、S57  
西尾寅弥、「現代語彙の研究」、明治書院、H3  
紫田武、「語彙論の方法」、三省堂、1988  
佐藤喜代治編、「国語学研究事典」、明治書院、S58  
国語学会編、「国語学大辞典」、東京堂出版、S56  
ジギョンレ、「日本語文法概説」、テハクサ、1995  
国立国語研究所、「談話語の実態」、秀英出版、1955  
国立国語研究所、「報告25」、秀英出版、1964  
林大、「図説日本語」、角川書店、S57